

こども通信

雨が降れば豪雨、晴れば猛暑。

日本の夏はますます厳しくなっています。同様に感染症の流行も過激になり、対応に苦慮しています。

社会は進んでいるのに、ますます生きづらくなってきたのはなぜでしょう。人間社会の歴史は誤った方向に進んでいるかも。そう思えて仕方ありません。

全く同じ感想を、マイナカードをめぐる騒動の中でも感じています。



政府が進めているマイナカードは多くの問題が露呈。根本的なシステムエラーがあるのだと思います。

しかし政府はマイナカードをやめるどころか、多数の分野にリンクして、さらに「多機能」にしようとしています。

その一つが健康保険証としての使用です。すでに医療機関はオンラインでの保険情報の取得が義務付けられています。当院でも毎日のようにトラブルが続いています。ネットを通じて保険情報を問い合わせても「該当保険はない」「保険情報は無効」などとメッセージが出る場合があります。有効な保険証を持っているにもかかわらず。

国はトラブル改善のために、初診の際には旧来の保険証を持参することを求めるそうです。それって、白旗をあげたってことですよ。オンライン資格確認よりも、紙保険証の方が確かだと認めたいわけですから。

でもマイナ保険証をやめようという。来年秋には保険証の廃止が決まっています。どうしてそんな頑なな姿勢を貫くのでしょうか？

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-iin.com



感染症情報

当地では現在RSウイルス感染症が大きな流行になっています。2年前のちょうど同じ時期にも大流行がおきていましたが、2年ぶりの流行です。全国的にも発生数が増えています。新潟県内では上越地域が最多。感染力が強く、当面は十分に注意をお願いします。

RS感染症は気管支炎症状が強くなり、特に乳児では酸素が必要な呼吸困難に陥ることも少なくありません。特に生後1歳まではかかって欲しくない感染症です。園での発生について情報を得るようにしてください。手洗いをこまめに、丁寧に行って予防にも努めてください。

感染性胃腸炎の流行も続いています。子どもは脱水や低血糖になりやすく、ぐったりしている場合は輸液などを早めに行う必要があります。お子さんの様子をしっかりと見ていてください。

ヘルパンギーナという夏かぜの流行も始まりました。熱と喉の痛みが特徴のウイルス性感染症です。これも全国的な流行であり、今後さらに拡大するかと思います。

新型コロナウイルス感染症の発生が少し見られています。沖縄県ではすでに大流行し、他の地域でも増加傾向です。夏場に大きな流行になる可能性もあるようです。今後も感染予防の対応をしっかり行ってください。

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症などは少数ですが発生しています。

問題のなかった従来の保険証を廃止し、マイナ保険証に変更・日本が世界に誇る「国民皆保険」の制度が大混乱しそうです。マイナ保険証は要りません。保険証をそのまま残してください。実はそれが一番確かな政策であり、新たなお金や労力が不要な方策なんです。頭を冷やしてください。

今月の予定

院長・副院長出務

看護大学生臨床実習 6日まで

上越市夜間診療所勤務 19日

上越有線放送「健康ライフ」20日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

医院ホームページ内

今は医療崩壊寸前？

このところ子どもたちの中で複数の感染症が流行し、小児科の外来は混雑しています。また当院の病児保育室も、定員いっぱいの子どもたちをお預かりする毎日です。

子どもたちがかかりやすい感染症は、多くは流行するものです。保育園などの集団内で感染を繰り返し、次第に規模が大きくなり、多くの子どもがかかると終息に向かいます。子育ての中で、感染症と無縁だということはありません。

季節ごとに流行しやすい感染症があり、それが毎年繰り返されている中で、子どもたちは次第に免疫を獲得していくものです。その意味では、感染症にかかることをネガティブに考える必要はなく、むしろ免疫が強化されるポジティブな意味合いがあります。

そうは言っても、やはり子どもが感染症にかかってしまうのは、色んな意味で大変ですよ。できればかからない方がいいし、かかっても軽

くすむ方がいいです。

また流行があまりに大きくなると、必要な医療を受けられなくなる可能性もあります。ちょうど新型コロナウイルスの流行時に「医療崩壊」が起きたように。

実は、現在の当院や病児保育の様子はこの「医療崩壊」の一手前になっています。新型コロナウイルス対応として始めた「発熱外来」のシステム（屋外で受け付けし、必要に応じて先に迅速検査を実施する）は今でも堅持していますし、他の感染症対応にも役立っています。ですが、その規模が大きくなりすぎていて、維持するところが困難になりつつあります。

私たち医療者側だけではなく、皆さんの受診者側からも、受診や病児保育預け入れが大変になっていることを実感されていることと思います。当院では予約を取らずに、来院された方の全てを診療する方針なのですが、それもいずれ見直す必要があるかもしれません（診療制限になることは、できればしたくないのですが、医療崩壊が現実になった場合は、何らかの対応をせざるを得なく

なるかもしれません）。

●穏やかな流行がいいな

複数の感染症が同時に、大規模に流行するのは、コロナ禍の対応が関係していた可能性があります。コロナにかからないように、マスクや手洗いをしっかり行い、少しでも風邪気味なら保育園や学校を休ませる：そのことよって、コロナの流行規模が抑えられました。

と同時に、流行るべき感染症が流行しなくなりました（毎年猛威を震っていたインフルエンザは約3年間発生がゼロ）。かからないために免疫を持たない子どもたちが増え、次に流行が起きた時には、今まで以上の患者発生が起きるといいう現象が起きています。

次第にコロナ対応は緩やかになって来ているので、コロナも他の感染症も流行しやすい状況になってきました。この傾向はしばらく続くでしょう。その間は、コロナ以外の感染症の大きな流行を繰り返すものと思います。

必要に応じて感染症予防の対応は

必要ですが、そうはいつてもかつての厳しすぎる対策はできません。少しずつ流行するのは仕方ないことですし、むしろ意識的に穏やかな流行ペースにすることができればいいと思います。

●園の対応が行き過ぎ？

保育所の対応で気になることがあります。体温が37・5度になると、元気が良いのに早退させることがあります。嘔吐や下痢もそうです。感染性胃腸炎ではなくても吐いたりすることはあるのですが。

保育の現場に余裕がないのかもしれませんが。新型コロナウイルスでずいぶん痛い思いをしたからでしょうか。「何かあったらどうする？」と考えて、つい行き過ぎた対応をしてしまうのでしょうか。

しかし、保護者は大変です。その度に呼び出され、勤務に差し支えてしまいます。小児科診療や病児保育にも過剰な負荷をかけることになります。

保育所でも適切な対応をして欲しいと思っています。